

阿見町町村合併70周年記念誌



阿見町長
千葉 繁

阿見町は、昭和30年（1955年）4月、旧阿見町、朝日村、君原村、舟島村の一部が合併し、人口2万2千人ほどの町として歩み始め、今年、町村合併70年を迎えました。

この間、社会情勢の大きな変革の中、多くの先人たちをはじめ、町民の皆さまならびに、関係各位の惜しめない努力と英知により、着実に発展してきました。これもひとえに、御指導・御支援を賜りました関係機関の皆さまをはじめ、さまざまな分野で御尽力いただきました皆さまのおかげによるものと深く感謝申し上げます。

さて、近年の我が国における社会経済情勢の影響を受け、地方自治体を取り巻く状況は大きく変化しております。そして、全国の多くの自治体では人口減少と少子高齢化が進行する中、本町では、若い世代が子育てしやすい環境づくりや都市基盤の整備を着実に進めてきたことにより、人口が増加に転じ、令和5年10月には常住人口5万人を突破することができました。

令和9年11月には市制施行を予定しており、新たなステージに向けての挑戦が始まります。市としての機能強化を図り、より充実した行政サービスの提供を通じて、皆さまの暮らしを一層豊かにしていくため、全力を尽くしてまいります。

今後とも、本町の更なる発展のために、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



予科練平和記念館

太平洋戦争の時代、阿見町には予科練教育の中心地である土浦海軍航空隊がありました。「予科練」とは、海軍飛行予科練習生の略称で、旧日本海軍のパイロットを養成する制度と、そこで学んだ少年たちを指します。この歴史を後世に伝えるため、当館は平成22年に開館しました。敷地内の格納庫では零戦の実物大模型も展示しています。



あみプレミアム・アウトレット

あみプレミアム・アウトレットには、ファッションやアウトドア用品、生活雑貨、レストランまで、国内外で人気のブランド約160店舗が店を構え、アメリカ西海岸をイメージした建物や緑豊かな歩道がある非日常の空間で、ショッピングや食事が楽しめます。



二所ノ関部屋

令和4年6月、第72代横綱「稀勢の里関」が親方を務める二所ノ関部屋が町内に開所しました。敷地面積は約5900平方メートル。2階建ての施設には、2面の土俵を設けた稽古場のほか、力士の住居スペースや銭湯のように広い浴場など、力士第一で考えられた環境が整っています。 ※稽古等の見学は二所ノ関部屋後援会の会員に限ります。



霞ヶ浦

阿見町の東側に広がる霞ヶ浦は、国内第2位の湖面積を誇る湖です。湖岸では自然を感じながらサイクリングや散策が楽しめます。ナショナルサイクルルート「つくば霞ヶ浦りんりんロード」のコースの一部であり、途中にある島津小公園からは筑波山と霞ヶ浦を一望できます。

阿見大使のご紹介

平成22年8月8日から

ノブ&フッキー さん

ものまね芸人

阿見町出身のノブさんと東京都出身のフッキーさんによるものまねコンビ。歌唱力と幅広いレパートリーで全国のステージイベントやテレビ番組に出演。ディナーショーやコンサートでも活躍。SNSも積極的に活用し、幅広い世代に向けて活動の場を広げています。



平成22年8月8日から

薬師 るりさん

シンガーソングライター

阿見町出身。クマさんとボメラニアンが大好きなシンガーソングライター。ゲームやアニメを中心に、多数の作品へ楽曲を提供中。声優や歌手への楽曲提供も行っています。



平成22年8月8日から

藤田 加奈子さん

フリーアナウンサー

阿見町出身。元IBS茨城放送アナウンサー。現在は、FMうつくししく放送「UUラジオ854！」パーソナリティーとして活動。また、茨城県立図書館の朗読講師としても活躍しています。

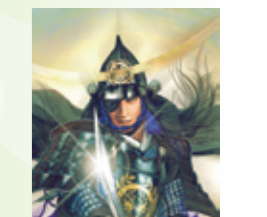


平成27年8月2日から

諏訪原 寛幸さん

イラストレーター

阿見町出身。世界中の歴史人物を幅広く手掛けるイラストレーター。ゲーム「真・三國無双」「戦国無双」などのキャラクターデザインを担当。全国各地で行われる歴史イベントでの展示会やイラスト提供も行う歴史人物画の巨匠。



平成28年8月7日から

みならいモンスターさん

ガールズバンド

阿見町出身。三姉妹のガールズバンド。全員で作詞・作曲を手掛け、80年代を思わせるキャッチーで口ずさみやすいロックサウンドで幅広い世代を魅了しています。 ※現在は活動を休止しています。



令和元年7月22日から

井坂 斗絲幸さん

津軽三味線井坂流家元

阿見町出身。公益財団法人日本民謡協会公認三味線・民謡師範教授。民謡・津軽三味線喜幸会会主。第24回津軽三味線コンクール全国大会優勝。演奏・制作・演出を一手に担う演奏家として国内外で活躍。若手指導にも力を入れ、幅広い世代に向けて三味線の魅力を発信しています。



令和元年7月22日から

泉水いづみ&浅野勝盛さん

マルチタレント

夫婦で歌手、司会等のさまざまな分野で活躍。音響関連会社経営。納豆・茨城を応援する「ねばねば音頭」をはじめ、楽曲制作やライブを精力的に展開。ラジオ番組「ねばる門には福来る〜東京発信 茨城大陸〜」を担当し、全国へ情報を発信しています。



令和4年4月6日から

二所ノ関 寛さん

二所ノ関部屋親方

第72代横綱、稀勢の里。平成29年初場所初優勝を飾り横綱に昇進。豪快な突き押しと粘り強い相撲でファンを魅了しました。平成31年の引退後は、親方として後進を指導。令和4年6月、阿見町に「二所ノ関部屋」を開所。

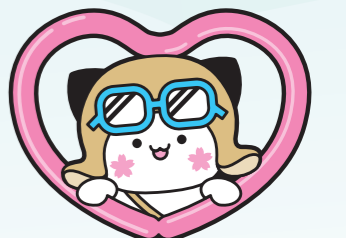


令和6年10月24日から

根木 マリサさん

ジャズピアニスト・作曲家

東京芸術大学音楽学部楽理科を卒業。オランダ・アムステルダム音楽院ジャズ科教授Karel Boehleelに師事。これまでに6枚のアルバムをリリース。テレビやラジオなど多彩なメディアに出演。また、ピアノ講師として200名以上を指導し、YouTubeの登録者数3万人を超えるなど、幅広いメディアで活躍しています。



阿見の魅力紹介

文化財

町の各所に、町の歴史や文化を伝える文化財が存在します。



木造阿弥陀如来立像附両脇侍立像
(県指定文化財)

慶派の仏師有慶による鎌倉時代の作で、時の常陸守護職小田知重の菩提を弔うため笠間時朝が作らせたものです。(阿見町追原・蔵福寺)



曙のグミ (県指定文化財)

樹齢数百年といわれるグミの老木で、樹高は約7mあり、本来低木であるグミの木としては驚異的な大きさです。(阿見町曙)



霞ヶ浦海軍航空隊有蓋掩体壕
(町指定文化財)

掩体壕は空襲から航空機を守るための構造物です。霞ヶ浦海軍航空隊の飛行場は航空隊発展の礎を築き、「東洋一」といわれました。(阿見町阿見)



特産品

阿見町は豊富な水資源を有し気候も温和であるなど、自然環境に恵まれ、農業が盛んに行われています。



常陸秋そば

阿見町のそば栽培のきっかけは、地元農家と茨城大学農学部生が共同で、地元の方に美味しいおそばを食べてもらおうと、1haの耕作放棄地(畑)を解消し、そば作りをしたことでした。その後、大学や民間企業等の協力を得ながら、土づくりや栽培技術に関する調査や研究を繰り返し、年々栽培面積は増え、令和7年度においては約103haまで拡大しました。近年では、「全国そば優良生産表彰」や「茨城家そば共進会」において上位の賞を受賞し、品質の良いそばの産地として認められるようになりました。



スイカ (6月～7月)

阿見町は茨城県の銘柄推進産地指定を受けている大玉スイカの産地です。水はけの良い土壌と温暖な気候という恵まれた自然条件で育ったスイカは、新鮮でシャリシャリとした口あたりと糖度の高さが特徴で、出荷される町外の各地でも高い評価を受けています。



レンコン (10月～3月)

阿見町を含む霞ヶ浦の湖岸一帯は日本一のレンコン産地です。アシなどが堆積した肥沃な土壌と水温の高さが栽培に最適な環境をつくっています。「先が見通せる」として縁起が良く、阿見町は茨城県の銘柄産地指定を受けており、贈答用にもお勧めです。

SDGs

阿見町では、「SDGs推進計画」や「SDGs未来都市計画」に基づき、産学民を巻き込んだ取り組みを進めるとともに、未来都市として町民や企業を先導する取り組みを実施しています。また、町民の皆さまと一緒にSDGsをさらに推進していくため、令和6年3月に阿見町オリジナル、18番目のロゴマークを決定しました。(右図)「Ami(阿見)」の「A」を作ってシンボル化しており、その形状は町から望む名峰「筑波山」を表しています。



町民への周知・啓発

令和3年から、町民や企業・団体を対象とした講演会・ワークショップ等を毎年開催しています。持続可能な開発目標「SDGs」を達成するため、全町民がSDGsを「知る・理解する」ことから、「考える・行動する」に繋がるようさまざまな普及促進活動を展開しています。



「SDGs日本モデル」宣言に賛同

令和5年11月26日、SDGs日本モデル宣言に賛同をしました。この宣言は、地方自治体が国や企業、団体、学校・研究機関、住民などと連携して、地方からSDGsを推進して地域の課題解決と地方創生を目指していく考え・決意を示すものです。



SDGs未来都市に選定

令和6年5月23日、内閣府から2024年度SDGs未来都市に選定されました。2030年のあるべき姿として「地域力で実現する持続可能なまちづくり」をテーマにしており、多様化する地域の課題に対して、行政だけではなく、自分たちの地域のことは自分たちで解決するまちを目指しています。

企業版ふるさと納税

企業版ふるさと納税とは、企業の皆さまが寄附を通じて、阿見町の地方創生の取り組みを応援した場合に、税制上の優遇措置(寄附額の約9割が負担軽減)が受けられる仕組みです。阿見町の地方創生の取り組みは以下のとおりになります。

I

あみらしい多様な働き方ができる事業

町民がライフスタイルに合った働き方を選択できるよう、地域産業を活かした雇用の場や挑戦できる環境を整え、あみらしい多様な働き方ができるようにします。

II

魅力を発信し、新たな人の流れをつくる事業

若い世代をターゲットに、5万人都市「あみ」のブランド化を図り、誇りや愛着が持てるまちの魅力を発信し、新たな人の流れをつくります。

III

まちぐるみで妊婦・子育て家庭を支え、若者や女性が活躍できる事業

居住年数や仕事の有無等に関わらず、安心して出産・子育てできるよう、まちぐるみで妊婦・子育て家庭を支え、若者や女性が活躍できるようにします。

IV

町内どこでも暮らしやすく、住み続けられる事業

地域交流や健康増進等の快適性、生活環境の利便性などを整え、地元住民や転入者等が、町内どこでも暮らしやすく、住み続けられるようにします。

阿見町のあゆみ

昭和30年 (1955)	旧阿見町、朝日村、君原村、舟島村（舟子を除く）が合併し、現町域の阿見町誕生
昭和34年 (1959)	「広報あみ」創刊号発行
昭和36年 (1961)	阿見町商工会発足
昭和37年 (1962)	町章制定
昭和41年 (1966)	役場新庁舎完成。霞台（現・かすみ公民館敷地）から現在地に移転
昭和43年 (1968)	陸上自衛隊武器学校内に予科練記念館（雄翔館）完成
昭和47年 (1972)	学校給食センター完成、本格的な完全給食始まる
昭和53年 (1978)	国鉄（現 JR）常磐線荒川沖駅橋上駅完成、若栗野球場完成
昭和55年 (1980)	中央公民館開館
昭和56年 (1981)	町民体育館完成
昭和58年 (1983)	阿見町消防本部・消防署完成、新庁舎へ移転
昭和60年 (1985)	町民憲章、町の「花、木、鳥」制定
昭和63年 (1988)	うずら出張所業務開始
平成元年 (1989)	図書館開館
平成2年 (1990)	第1回まい・あみ・まつり開催
平成9年 (1997)	霞クリーンセンター完成 総合保健福祉会館「さわやかセンター」開館 アメリカ・ウィスコンシン州スーペリア市と姉妹都市締結 合意書に調印
平成10年 (1998)	ごみ最終処分場「さくらクリーンセンター」完成
平成11年 (1999)	うしくあみ斎場供用開始、町公式ホームページ開設
平成13年 (2001)	総合運動公園町民球場完成
平成14年 (2002)	本郷ふれあいセンター開館



「広報あみ」創刊号発行



役場新庁舎完成



図書館開館



第1回まい・あみ・まつり開催



本郷ふれあいセンター開館

平成17年 (2005)	ふれあいの森（若栗）完成 新水道事務所が追原に完成。上郷配水場から事務所を移転
平成18年 (2006)	牛久警察署阿見地区交番開所 さわやかフェア、町商工会「あみ商工まつり」、県立医療大「創療祭」同時開催が始まる
平成19年 (2007)	圏央道・つくば牛久 IC ～阿見東 IC 間（12km）開通
平成20年 (2008)	本郷第一土地区画整理事業地内に本郷近隣公園開園
平成21年 (2009)	圏央道・阿見東 IC 近くにあみプレミアム・アウトレット開業 あみプレミアム・アウトレット店舗（フードギャラリー）内にあみコミュニケーションセンターを開所
平成22年 (2010)	予科練平和記念館開館
平成23年 (2011)	デマンドタクシー「あみまるくん」運行開始 東日本大震災発生。阿見町で震度 5 強を観測し、生活関連施設等に多数の被害が発生
平成25年 (2013)	新学校給食センターが完成
平成30年 (2018)	あみっぺが阿見町公式マスコットキャラクターに決まる
令和元年 (2019)	天皇陛下御即位記念第 74 回国民体育大会 「いきいき茨城ゆめ国体」セーリング競技会開催
令和2年 (2020)	新型コロナウイルス感染症がまん延し、対策本部を設置
令和3年 (2021)	中華人民共和国 広西壮族自治区 柳州市と友好都市に関する協定を締結
令和4年 (2022)	二所ノ関部屋が開所
令和5年 (2023)	常住人口 5 万人達成
令和6年 (2024)	阿見町が SDGs 未来都市に選定 樋口黎さん（霞ヶ浦高等学校出身）がパリ 2024 オリンピック レスリング男子フリースタイル 57kg 級で金メダル獲得



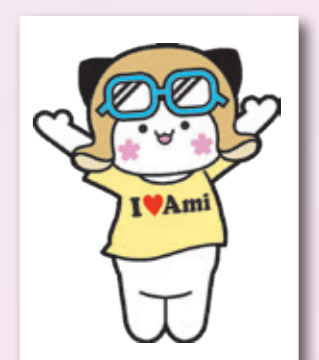
圏央道・つくば牛久 IC ～阿見東 IC 間（12km）開通



予科練平和記念館開館



デマンドタクシー「あみまるくん」運行開始



阿見町公式マスコットキャラクター
あみっぺ



いきいき茨城ゆめ国体開催



常住人口 5 万人達成

町 章 (昭和37年3月12日制定)



全国から公募した約500点の中から選ばれた、
三浦 明さん（当時仙台市在住）の作品。
「ア」を図案化し、三つ組み合わせて阿見をあら
わし、町の「和」と「発展」の姿を象徴しています。

町の花・木・鳥 (昭和60年11月1日制定)



町の花 キク



町の木 サクラ



町の鳥 ウグイス

阿見町町民憲章 (昭和60年11月1日制定)

わたくしたちは、阿見町民であることに誇りと責任をもち、健康で、やすらぎと活力のある、
住みよい町づくりをめざして、この町民憲章を定めます。

- 1 自然を愛し、水と緑の美しい町をつくりましょう。
- 1 知性と教養を高め、文化の香り高い町をつくりましょう。
- 1 働くことに喜びをもち、豊かな町をつくりましょう。
- 1 自らきまりを守り、力をあわせ、明るい町をつくりましょう。
- 1 思いやりと感謝の心で、あたたかい町をつくりましょう。